

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174200509		
法人名	社会福祉法人豊井会		
事業所名	グループホーム賀美邑		
所在地	〒369-0311 埼玉県児玉郡上里町勅使河原1584		
自己評価作成日	平成23年9月18日	評価結果市町村受理日	平成23年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成23年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は月1回の社内研修及び施設外研修に積極的に参加し、質の向上を図り、ご利用者様が安心、安定した生活を送ることができるよう努めています。さらに、自分たちのケア目標を立てて、実践へとつなげています。

また、2ヶ月に一度、職員の親睦会を開催し、コミュニケーションの場を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅地にあり、緑も多く、落ち着いた環境の中にある1ユニットのホームである。室内はゆったりとしたスペースがあり、広々とした空間がある。周りには併設のケアハウスやケアセンターがあり、コンサート等、併設の施設の催し物等にも参加している。事務所前にはホームの理念が掲示され、反対側の壁には入居者の日常の写真が沢山飾られ、生活振りがうかがえる。管理者、職員は排泄、入浴、食事に関する年間のケア目標を立て、会議等で振り返りながら取組み、2ヶ月に一度の親睦会で交流を深め、職員間のチームワークも良い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所入り口に理念をかけている。又研修を行いながら理念の認識を深め、ケア目標に沿った実践につなげている。	事務所入口の理念を見ながら職員は認識を深め、ケアに取り組んでいる。管理者は月一回行われる会議でも振り返りを促し、理念やケア目標を皆で再認識し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけた時などは、必ず挨拶をするよう、努めている	自治会には入会していないが、散歩時に地域の方と挨拶を交わす等交流に努めている。法人の理事長は地元住民であり、地域の清掃活動や下校時の身守り等の活動に参加している。地域の方が散歩時に椅子を用意してくれたり、一人で外出した入居者について知らせてくれた事もある。	地域の方とホームの交流を深める為、地域活動や行事等に参加し、会話する機会が増えることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の行事には積極的に参加している。中学生の体験学習を受け入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、地域の方に事業所を理解してもらえるように努め、意見交換や助言を通してサービスの向上に繋げている。	会議は包括支援センター担当者、保護司、家族、区長等が参加し、年6回開催した。ホームからはサービス利用状況や活動、行事報告、避難訓練等について報告した。出された意見は検討し、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して、利用状況や活動報告を行っている。	町の担当者には毎月ケアサービスの取り組みや空床報告等を伝え、連絡を取っている。管理者は担当者と良い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修の場を設けている。又他研修への参加をし、学んできたことを伝える機会を設けている。身体拘束のマニュアルを目的のところに置いてある	年間研修計画の中に組み込み、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。職員も身体拘束について正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の場を設けている。また虐待への早期発見に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を準備し、いつでも見られる所に置いてある。又家族にも希望に応じて、説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容を十分に説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者さまの訴えを最後まで傾聴し、面会時などにご家族等のご意見や要望を聞く機会を設けている。又ご意見・要望の設置箱を置いてある	面会は月一度見える方から2～3ヶ月に一度程度の方までいるが、面会時を捉えて話を傾聴し、意見や要望を聞いている。手紙や電話で連絡する事もあり、意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時や他、常に意見を聞くよう心がけている。	管理者は月一回の会議時や、職員と一緒に働きながら、意見や要望に耳を傾け、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	非常勤職員を積極的に常勤に登用したり、介護福祉士やケアマネージャーの資格取得を奨励している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修への参加の機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域部会の研修や会合で交流する機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉に耳を傾け、安心の確保、環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安なことや困っていることが話せる雰囲気づくりに努め、電話連絡を密にとりながら、信頼関係に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を傾聴し、スタッフ一同が共通の認識が持てるよう、話し合いの機会を持っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主体はご利用者であり、職員は生活のパートナーの理念に基づいたケアを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの行事に参加していただけるようにしている。またホームでの生活状況を折にふれ、お話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔ながらの友人の訪問や電話での会話など、なじみの関係を切らさないよう、支援している	ホームでは兄弟や友人から電話がかかってきたり、家族と一緒に外食に出掛けたり、これまでの人間関係が途切れないよう支援している。通院の帰りに馴染みのスーパーに寄ったりもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動を通して、自然の流れで利用者同士が関わられるよう支援している。又利用者が孤立しないよう声がけを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談に応じられる事を説明している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの中から本人の思いや、希望、意向の把握に努め、職員間で情報の共有を行いながら、希望に沿った暮らしができるよう検討している	言葉ではうまく表せない入居者も多いが、傾聴し、しぐさや表情等から思いを汲み取るよう努めている。又、職員間で情報の共有に努め、入居者の思いにうまく対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族から生活歴や暮らし方などを伺っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録・処遇日誌で一日の過ごし方、心身状態、活動が把握できるように努めている又申し送りノートの記入を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員、看護師などの意見を取り入れて作成している	ケアマネジャーがアセスメントを行い、全員で会議で検討し、現状に即した計画を作成している。本人、家族、看護師の意見や要望も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のカンファレンスを行いながら介護計画の見直しに繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、運営者、職員で話し合いながら行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる各種教室の開催、町主催の文化祭の出版を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関のあるが、希望医がある場合は、できる限り対応できるよう努めている。	入居者9名はホームの協力医療機関や、以前からのかかりつけ医を受診している。家族対応が困難な方はホームで支援している。現在はホームで対応している方が多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と密に連絡、相談をし必要な処置をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は定期的に面会し担当医、看護師に情報交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り介護が必要となった場合の当施設の指針を説明した上で希望を伺い、できるだけ沿うよう取り組んでいる。	看取りの指針を示し、家族の希望で看取りまでの支援を行っている。協力医療機関のかかりつけ医と連携し、早い段階でその都度家族に説明を行いながらターミナルに向けて希望に添った支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアル、救急救命の研修への参加を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難訓練時に消防署の指導を受けている	年2回の防災訓練を実施している。夜間を想定した訓練も入居者と共に実施した。区長にも訓練に参加してもらった。訓練は併設のケアハウスと合同で行い、職員も消火、避難誘導等の方法を身につけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言動には十分注意するよう指導している	入居者の気持ちを大切にし、人格を尊重した言葉掛けや対応を心掛け、実践している。プライバシーについての年間研修計画も立てられ、管理者は研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言語的コミュニケーションや非言語コミュニケーションを通して本人の思いをくみ取ることができるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、まずは、本人がその気になる働きかけを心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際には本人の希望を確認し、季節、天候に合わせた身だしなみや、おしゃれが出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できることは、積極的に参加してもらい、食器拭きやテーブルを拭きを行っている	入居者の重度化もあり、食後の食器拭きやテーブル拭き等の後片付けを一緒に行っている。土日は好みを聞いて手作りおやつを作ったり、誕生日会には職員がケーキを作り、行事食では月一回松花堂弁当を取り、楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立により栄養バランスの取れた食事をして頂いている。また硬さや味付けなどは一人ひとりの状態に合わせて変更している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人が行える方には声がけをしている。就寝時は入れ歯を預かりポリデントにつけて置く		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行っている	ホームでは一人一人の排泄パターンを掴みながらプライバシーに配慮し、リハビリパンツやテープ止めタイプのオムツ、布パンツ等自立状況に合わせた排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、軽い運動の実施		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週5日の入浴日を設け、時間に余裕をもって入浴してもらう。また拒否があった時は時間をずらすなどの工夫をする	月曜日から金曜日までの入浴日を設け、基本は週2回とし、身体状況に合わせ3回入浴する方もいる。好みに応じ長湯の方にも対応し、菖蒲湯やゆず湯等、季節を楽しむ入浴も取入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類の調整、交換、布団干しをこまめに行い、気持ちよく眠れるよう心掛けている、又天候の良い日には外気浴を実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬の種類、効能を記録しいつでも見られるようにしてある、変更があった時は速やかに全職員に伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や楽しみ事をレク活動に取り入れながら、出来ることはやってもらえるよう職員が見守りながら行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候の良い日には散歩にでる。また季節事に季節の花を楽しめるよう外にでる。	四季折々に車で桜やコスモス等を見に出掛け、天候の良い日にはホームの廻りを散歩して気分転換や外気浴を行っている。地域の方とも挨拶を交わし、交流を図っている。家族と一緒に食事に外出する方もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は本人は持っていないが、必要に応じて預かっているお金は出すとはなしてある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人からの電話に出ている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内、居間は自然の光と風が入るように設計されており、照明も明るすぎないよう工夫されている	リビングルームや廊下は広く、キッチンから入居者の様子がよく見えるよう設計している。キッチンの上にある高い天井の天窓からは十分な陽が差し込んでいる。ホームでは安全な生活環境を作り、転倒予防の為に物に物を置かないよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小さなスペースを作り、気の合う人とおしゃべりを楽しんだりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具や仏壇などを持ってきていただいている	入居者が不安無く安心して落ち着いた生活が出来るように馴染みの家具や品を持ってきてもらっている。仏壇や使い慣れた家具が持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう整頓している。職員は毎日入居者と一緒に片付けや清掃の支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フローバーリアフリーとなっており、手すりが設置してある。居室内も利用者に合わせて危険のないように工夫している。		